

広域インフラ検討会の取組

平成26年8月21日

広域インフラ検討会

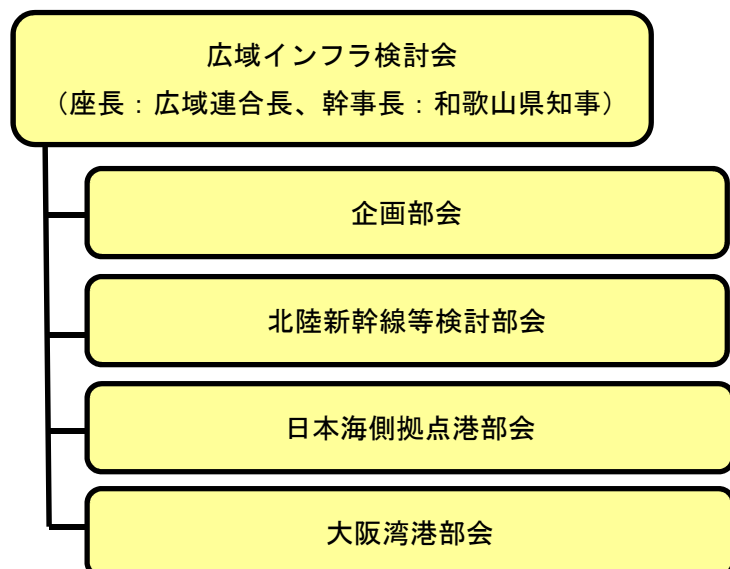
関西における広域交通インフラ整備、リダンダンシーの確保、北陸新幹線などの広域インフラについて検討するため、「広域インフラ検討会」を設置（平成23年7月）

1 これまでの主な取組

- (1) アジアの国際物流圏・次世代産業圏を担う関西を実現するため、必要なインフラの在り方や基本的な考え方を示した「広域交通インフラの基本的な考え方」（別添1）を策定するとともに、この考え方に基づく「広域インフラマップ（道路）」（別添2）を作成（平成25年3月）
- (2) 北陸新幹線（敦賀以西）ルート提案に係る取組方針を決定（平成25年4月）及び要請活動
- (3) リニア中央新幹線全線同時開業決起大会の開催（平成25年12月）及び要請活動
- (4) 関西主要港湾における広域的連携の調査・研究（平成25、26年度）

2 今後の主な取組

関西全体の発展に必要な広域インフラについて、関西大都市圏の実現、地域を総合的に活用できる最低限のインフラ、大規模地震など自然災害等への備えを柱とする「広域交通インフラの基本的な考え方」も踏まえ、関西主要港湾の広域的連携や、リニア中央新幹線の全線同時開業に向けた取組などを行う。



広域交通インフラに関する総合的な検討・調整を「企画部会」で実施するとともに、個別課題検討のため、「北陸新幹線等検討部会」「日本海側拠点港部会」「大阪湾港部会」を設置し、検討を行う。

関西広域連合 広域交通インフラの基本的な考え方

○はじめに

広域交通インフラは、関西圏のもつ、優れた歴史・文化や人・モノ・情報といったポテンシャルを十分に発揮させ、関西圏域内はもとより、アジアや他の圏域との交流を活発にする基盤であり、双眼型・多極型の国土構築に必要な社会基盤でもある。

そのため、関西広域連合として、現状の課題や7分野の広域計画等（防災、観光・文化振興、産業振興、医療、環境保全、資格試験・免許等、職員研修）を踏まえ、アジアの国際物流圏・次世代産業圏を担う広域関西を実現するために、必要なインフラのあり方や基本的な考え方を整理し、共通認識を持つことが必要である。

○基本的な考え方の骨子

1 関西大都市圏の実現

(1) 関西大環状道路と放射状道路及び鉄道網等の形成により、関西都市圏を拡充

(2) 関西3時間圏域の実現

- ・ 空の玄関（関西国際空港）から、3時間以内でアクセス可能なインフラ
- ・ 陸の玄関（新大阪）から、3時間以内でアクセス可能なインフラ
- ・ 海の玄関（阪神港、舞鶴港、境港、姫路港等）から3時間以内でアクセス可能なインフラ

2 地域を総合的に活用できる最低限のインフラ

(1) 人が地域で安心して暮らすためのナショナルミニマムとして（医療・教育機会の平等と同様に）

(2) 経済活動の基本的なチャンスの保障

- ・ 企業立地におけるチャンスの平等
- ・ ポテンシャルを活かした観光や農林水産業の発展
- ・ 高速道路渋滞区間、ミッシングリンクの解消による本来機能の発揮

3 大規模地震など自然災害等への備え

- ・ 大規模地震や風水害時の緊急輸送道路の確保
- ・ リダンダンシーの確保

関西広域連合広域インフラ検討会 広域インフラマップ

道路

平成26年4月30日現在(平成25年5月策定)



インフラマップ
策定後に供用

- 凡例
- 幹線道路
 - 供用中
 - 事業中
 - 計画中
 - 構想中
 - 国道等
 - 港湾
 - 国際戦略港湾
 - 国際拠点港湾
 - 重要港湾

関西広域連合広域インフラ検討会 広域インフラマップ

平成26年4月30日現在(平成25年5月策定)



インフラマップ
策定後に供用

- 凡例
- 幹線道路
 - 供用中 (Solid purple line)
 - 事業中 (Dashed purple line)
 - 計画中 (Red dotted line)
 - 構想中 (Red dashed line)
 - 国道等 (Thin solid line)
 - 港湾
 - 国際戦略港湾 (Circle with 'S')
 - 国際拠点港湾 (Circle with 'D')
 - 重要港湾 (Circle with 'I')